

## 若者支援における「場」の教育的価値： ユースワークの日欧比較

平塚, 眞樹 / HIRATSUKA, Maki

---

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

11

(発行年 / Year)

2021-06-02

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03772

研究課題名(和文) 若者支援における「場」の教育的価値～ユースワークの日欧比較

研究課題名(英文) Pedagogical values of youth work which values 'spaces' where young people live and work collectively : Comparative study between Japan, UK, Finland and Denmark

研究代表者

平塚 眞樹 (Hiratsuka, Maki)

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：10224289

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、若者支援の「個人化」の中で、「場をつくる」若者支援の教育的価値の解明と、そのために必要な専門性と専門性を育てる環境の明確化を目的とし、国内4カ所、並びにイギリス、フィンランド、デンマークのフィールドにて、ヒアリング・訪問調査を実施した。調査と討議を通じて、「場をつくる」若者支援の教育的価値を明らかにし、「場をつくる」若者支援の専門性を育成する手法として、<Storytelling(実践の語り)からDocumentation(実践記録)へ>という仮説モデルを抽出し、その問題提起のために国際学会における報告、電子書籍『若者支援の場をつくる』の刊行、国内における国際セミナーを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

若者支援実践では、ともすれば、若者個人への支援やその結果としての変化に着目しがちであるが、本研究では、人の育ちにおける「関係性と場(環境)」の意味に着目し、「場をつくる」若者支援というアプローチを設定したことに第一の意義がある。

加えて、研究を通じて、<Storytelling(実践の語り)からDocumentation(実践記録)へ>という仮説的モデルを導出し、「場をつくる」若者支援の教育的価値を社会的に明示すると同時に、実践者の専門性を育成する手法を提示したことが第二の意義である。この仮説モデルの有効性は、本科研に引き続き採択された次期科研において国内外で検証を行う予定である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the pedagogical value of youth work which "creates a place" in the "individualization" of youth support, and to clarify the professionalism and environment that fosters the professionalism. Interviews and visits were conducted at four organisation in Japan, as well as in fields in the United Kingdom, Finland and Denmark.

The output of this study is to derive a model of 'Storytelling to Documentation' as a method to clarify the pedagogical value of "creating a place" youth work, and to develop the professionalism of the work. In order to raise the issue, a report was held at an international conference, an e-book "Creating a place for youth work" was published, and an international seminar was held in Japan.

研究分野：教育学

キーワード：若者支援 ユースワーク (Youth Work) 場づくり 日欧比較 ストーリーテリング (Storytelling) ドキュメンテーション

## 1. 研究開始当初の背景

近年の先進諸国における若者支援をめぐる動向には、支援手法の「個人化」志向がある。1990年代以降、日本を含む先進諸国では共通して、若者の学校から社会への移行過程の困難化が進行し、「ニート」「フリーター」「若年失業」といった現象への社会的関心が集まり、それに対する支援施策やスキームも台頭した。これに伴い多くの国・地域では、「困難な若者」への支援政策の台頭により、「(すべての若者を対象とした)ユニバーサル」型と呼ばれる支援から「(困難な若者を対象とした)ターゲット」型と呼ばれる支援へと、若者支援手法の変容がもたらされる。例えばヨーロッパでは、1960年代の福祉国家形成過程で、ユースワーク (Youth Work) と呼ばれる「すべての若者」を対象とし、ユースセンターと呼ばれる地域の居場所づくりとグループワークを重視した活動が制度化したが、「困難な若者」への関心の焦点化は、カウンセリング、トレーニング、インフォメーション、ソーシャル・スキルといった個人志向の支援手法の台頭と、ソーシャル・スキルや就業力など、個々人の力量形成への関心のシフトを生み出していった。

本研究が着目するのは、国内外を問わず、ユースワークなど「ユニバーサルな」若者支援の現場では、従来、関係性と「場」を重視した実践が取り組まれており、その手法が「困難な」若者への支援としても、ユニバーサルに通用力があると認識されていること、それゆえ若者支援の個人化シフトや、それに伴う自分たちの実践を支えてきた諸条件の再編に、危機意識を共有している点である。本研究では、こうした背景認識に立って研究を起案した。

この着想は、2012-2015年度の科学研究費助成金研究(基盤研究(B))「若者支援政策の評価枠組み構築に向けた日欧比較研究～「社会的教育学」援用の可能性」)で得られた知見にある。

上記研究では、国内外約30名の研究グループにて、国内(札幌、東京、京都)・国外(フィンランド、デンマーク、イギリス)計10回のワークショップ、セミナー開催を通して以下の知見を得た。

(1) 若者支援政策の評価枠組みとして、支援の入口(対応者数など)、出口(就職者数など)の「数値評価」が採られる趨勢にあるが、欧州ではヘルシンキ市のピア・アセスメントなど、「場とプロセス」に焦点をあてた評価手法が開発されてきており、その意義を検証する必要がある。

(2) 事業の評価は、若者支援実践の公共性を担保すると同時に、現場で実践をふりかえり専門性を深化する機会にもなりうる。イギリスでは「場をつくる」若者支援の危機意識から、Story Telling Workshopなどの手法が開発されてきており、その内実を検証する必要がある。

(3) 「場とプロセス」を重視するユースワークの発達には、同業者団体、実践者コミュニティの存在が深くかかわっており、それらが内部における専門性育成と、外部に向けた事業の社会的正統性を担保する装置でもあるとの仮説を得、その役割や機能をさらに掘り下げる必要がある。

## 2. 研究の目的

近年の若者支援政策の基調が、ともすれば、若者個人への支援やその結果としての個々人の力量変化に着目しがちであるなかで、本研究では、人の育ちにおける「関係性と場(環境)」の意味に着目し、「場をつくる」若者支援というアプローチを設定、「場をつくる」若者支援の教育的価値の明確化と、若者支援の「場をつくる」うえで不可欠な実践者の専門性とそれを育成する社会的条件・環境を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、これまでの研究で得られた日本における若者支援実践現場、欧州におけるユースワーク、social pedagogy 関係者を研究協力者とした、アクション・リサーチの手法で実施した。

調査フィールドは、国内では四カ所(さっぽろ青少年女性活動協会、NPO文化学習協同ネットワーク、エルムアカデミー、京都市ユースサービス協会)、国外については3カ国(イギリス、フィンランド、デンマーク)を対象とし、イギリスについてはユースワーカーによる自主組織 In Defence of Youth Work 関係者(イングランド)、スコットランドのユースワーク、CLD (Community Learning Development) 関係者、フィンランドではヘルシンキ市青

年局関係者、デンマークについては social pedagogy 研究・実践団体を、それぞれ主たるインフォーマントとした。

研究の目的で示した問いを明らかにするために、日本を含む 4 カ国で以下の研究作業に取り組んだ。

- (1) 場をつくる若者支援実践のユニバーサルな教育的価値の明確化  
若者支援の現場を当事者として経験した「困難」な若者たちからの場の意味を問うヒアリングと、場をつくる実践者(ワーカー)のヒアリングおよび実践記録の収集を通して、困難を負った若者も含めた若者の育成にとって、若者支援の「場と場づくり」が果たしてきた意味を明らかにすること。
- (2) 場をつくる若者支援実践を支える社会的条件の明確化  
欧州各国における実践者育成機関、同業者組織、労働組合、評価機関の訪問調査を通して、「場をつくる」若者支援実践を支える社会制度、システムなどの環境を明らかにすること。

#### 4 . 研究成果

上記(1)に関して実施したヒアリングは以下の通りである。

若者からのヒアリング

国内：6件 国外：イギリス 4件

(フィンランドについては調査準備を行ったが、コロナウイルス感染症の影響で中止)

実践者(ワーカー)からのヒアリング

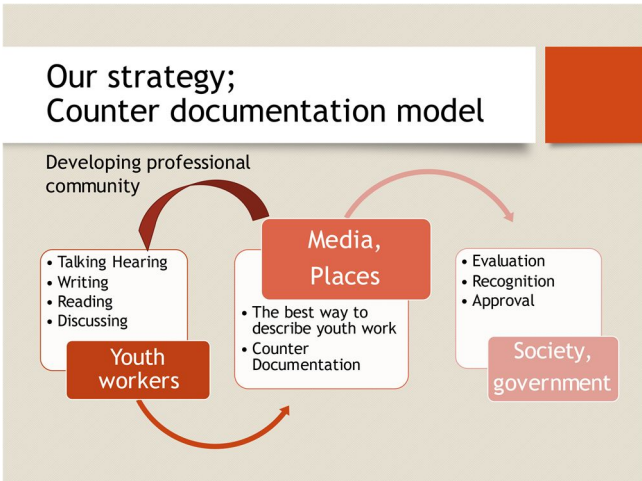
国内：5件 国外：イギリス 4件、フィンランド 4件

上記(2)に関して実施した国外訪問調査は以下の図表の通りである。

	イギリス	フィンランド	デンマーク
Youth Worker、Social Pedagogueの養成機関	YMCA George Williams College (2017)	HUMAK University of Applied Sciences (2016)	University College Copenhagen (2016)
Youth Worker、Social Pedagogueの専門職団体、同業者団体	YouthLink Scotland (2017) Edinburgh Youth Work Consortium (2017) In Defence of Youth Work (2016-)	Allianssi :Finnish youth umbrella organization (2016)	SL : National Union of Social Pedagogues (2016)
Youth Worker、Social Pedagogueの労働組合	Community and Youth Workers Union (2015)	JHL: The Trade Union for the Public and Welfare Sectors (2016)	
Youth Worker、Social Pedagogueの評価、認証、監督機関	Community Learning Development Standards Council (2017, 2018)	Youth Department of Helsinki city (2015, 2016)	Socialtilsyn : The Social Supervisory Authority (2016)

上記の研究を通して得られた成果としては、以下の2点を挙げられる。

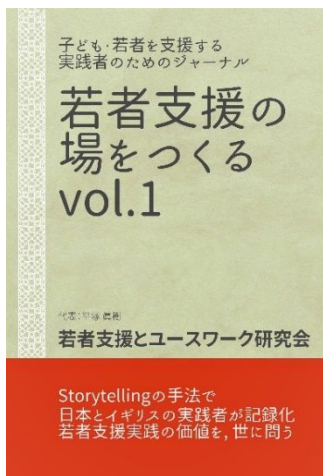
- (1) 場をつくる若者支援実践のユニバーサルな教育的価値の明確化  
調査と討議を通じて、「場をつくる」若者支援の教育的価値の明確化に寄与し、「場をつくる」若者支援の専門性を育成する手法として、< Storytelling (実践の語り) から Documentation (実践記録) へ > という仮説モデルを抽出した。  
このモデルでは、実践者の集う場において、実践者が自らの経験を通して「これが若者支援(ユースワーク)だ This is youth work」と考える実践の story を、語りー聴き合う (Storytelling) 。そして、問われ聴き取られることでより明確化した story を、あらためて実践者が描きー実践者が集う場において読み合う (Documentation) 。綴られた document は、その後、社会的に発信される。この一連のプロセスは、実践者が実践者集団の中で自らの実践をふりかえる (reflection) ことで、その専門性を深化すると同時に、実践者集団を育て、若者支援・ユースワークの教育的価値に関する共通認識を促す。



それとともに、産み出された実践 story の document の社会的発信は、社会において若者支援・ユースワークの教育的価値の理解を広げ、実践者と社会のコミュニケーションと信頼関係構築の媒体となりうる。

この仮説モデルを問題提起するために、国際学会（Transformative Youth Work International Conference 開催地イギリス）における報告「How do we explore and present outcomes and significance of youth work?: Counter documentation of youth work as storytelling in Japan」(2018年9月)をおこない、電子書籍『若者支援の

場をつくる』(Amazon Kindle)の刊行(2019年5月)(下記)、国内3カ所における国際セミナー「イギリスのユースワーカーと考える、子ども・若者が育つ場づくり What is Youth Work?」の開催(2019年9月)をおこなった。(下記)



(2) 場をつくる若者支援実践を支える社会的条件・環境について、国内の学会（日本教育学会第78回大会）において、「若者支援実践の専門性を支える社会的環境～欧州3カ国における Youth Worker/Social Pedagogue をめぐる分析比較」として報告をおこなった。ここでは、フィンランド、スコットランド、デンマークの調査を通して、下記スライドにあるように、諸機関の連関性・相補性・ネットワークが、若者支援実践の専門性を担保する「環境」として機能すること、並びに、その「環境」のソフトとして、若者支援の仕事の定義・規範の明確化と自己規律のシステムが存在することを指摘した。

### 全体まとめ(1) 機関相互の連関性、相補性、ネットワーク性

50

**フィンランド**

- 自治体、Allianssi JHL, HUMAK

**スコットランド**

- 政府・自治体、YouthLink Scotland, Education Scotland, Scottish Youth Work Research Steering Group, CLD Standard Council

**デンマーク**

- University College SL, 社会監督庁

諸機関の連関からなる「環境」の存在

### 全体まとめ(2) 仕事の定義・規範の明確化と自己規律のシステム

51

問い: 若者支援実践を取り巻く社会的環境の構成・構築のあり方と、それが実践の社会的認知と専門性発達に果たす役割

**フィンランド**

- 「対話」に機軸を置いた「ワーカーの資質」指標作成と「調査-検証-評価」のシステムが作用

**スコットランド**

- CLD Standard Councilが、研究者・ワーカーの参加・討議を組織し、Value (価値)、Code of Ethics (倫理綱領)、Competence (コンピテンス) を制定し、内外を規律

**デンマーク**

- 機関間の緊張関係も含めた相互作用が、ソーシャル・ペダゴグの専門性や価値の創造と再定義を進めるシステム

< Storytelling( 実践の語り ) から Documentation( 実践記録 ) へ > 仮説モデルの有効性については、本科研に引き続き採択された次期科研において、国内外で検証を行う予定である。

以上

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 横井敏郎	4. 巻 85-2
2. 論文標題 教育機会確保法制定論議の構図 学校を越える困難	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 186,195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11555/kyoiku.85.2_186	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 平塚 真樹	4. 巻 11
2. 論文標題 若者と居場所をつくる一日欧のユースワークの現場から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生涯発達研究	6. 最初と最後の頁 25,36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 南出吉祥	4. 巻 第41号
2. 論文標題 「若者支援」の担い手の多様性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岐阜大学地域科学部研究報告	6. 最初と最後の頁 127～143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 南出吉祥	4. 巻 第866号
2. 論文標題 地域づくりと若者支援との結びつき	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 5～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Christian Imdorf, Laura Alexandra Helbling & Akio Inui	4. 巻 14
2. 論文標題 Transition systems and non-standard employment in early career: comparing Japan and Switzerland	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Education and Work	6. 最初と最後の頁 1, 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13639080.2016.1243234	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 乾彰夫	4. 巻 27
2. 論文標題 学校から社会への移行期間延長と青年期教育の課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 発達心理学研究	6. 最初と最後の頁 335, 345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮崎隆志	4. 巻 37
2. 論文標題 地域社会教育学としてのSocial Pedagogyの展開可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会教育研究	6. 最初と最後の頁 1, 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横井敏郎	4. 巻 892
2. 論文標題 高校内居場所カフェという実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 88, 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Akio Inui, Maki Hiratsuka
2. 発表標題 Emerging Inequality and Epistemological Fallacy: Andy Furlong and Japanese Young People
3. 学会等名 International Sociology Association 2018 Congress (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Bernard Davies, Tania de St Croix, Maki Hiratsuka, Misako Yokoe, Fumiyuki Nakatsuka
2. 発表標題 Story Telling in the UK & Japan
3. 学会等名 Transformative Youth Work International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maki Hiratsuka, Akio Inui, Fumiyuki Nakatsuka, Misako Yokoe, Yoshinari Minamide, Miki Hara,
2. 発表標題 How do we explore and present outcomes and significance of youth work? : Counter-documentation of youth work as story-telling in Japan
3. 学会等名 Transformative Youth Work International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横井敏郎
2. 発表標題 現代日本の義務教育の拡散 制度外教育機会・規制緩和の観点から
3. 学会等名 日本教育制度学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 乾彰夫
2. 発表標題 誰がどのようなリスクを抱えているか～家族背景 / ジェンダー / 地域
3. 学会等名 日本学会議公開シンポジウム・若者の生活保障のために何が必要か ナショナルミニマムとローカルオプティマムの観点から (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平塚眞樹、横井敏郎、南出吉祥、原未来、乾彰夫、岡幸江
2. 発表標題 若者支援実践の専門性を支える社会的環境欧州3カ国におけるYouth Worker/Social Pedagogueをめぐる分析
3. 学会等名 日本教育学会78回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 乾彰夫・本田由紀・中村高康・佐野正彦・木戸口正宏・樋口明彦・横井敏郎・上間陽子・安宅仁人・片山悠樹・芳澤拓也・藤田武志・児島功和・竹石聖子・有海拓巳・平塚眞樹・南出吉祥	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 410
3. 書名 危機のなかの若者たち 教育とキャリアに関する5年間の追跡調査	

1. 著者名 平塚眞樹 若者支援とユースワーク研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Amazon Kindle	5. 総ページ数 134
3. 書名 若者支援の場をつくる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮崎 隆志  (Miyazaki Takashi)  (10190761)	北海道大学・教育学研究院・教授    (10101)	
研究分担者	横井 敏郎  (Yokoi Toshiro)  (40250401)	北海道大学・教育学研究院・教授    (10101)	
研究分担者	岡 幸江  (Oka Sachie)  (50294856)	九州大学・人間環境学研究院・教授    (17102)	
研究分担者	南出 吉祥  (Minamide Yoshinari)  (70593292)	岐阜大学・地域科学部・准教授    (13701)	
研究分担者	乾 彰夫  (Inui Akio)  (90168419)	東京都立大学・人文科学研究科・客員教授    (22604)	
研究分担者	原 未来  (Hara Miki)  (90760603)	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授    (24201)	
研究分担者	石野 由香里  (Ishino Yukari)  (20734081)	明星大学・明星教育センター・准教授    (32685)	
研究分担者	大串 隆吉  (Oogushi Ryukichi)  (70086932)	東京都立大学・都市教養学部・客員教授    (22604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 イギリスのユースワーカーと考える、子ども・若者が育つ場づくり What is Youth Work?	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------